

『不幸な嘘』

私は、自分が幸せであればあるほど、嘘を吐いてしまいます。

幸せであればあるほどに、それを誤魔化す嘘を吐いてしまいます。

幸せであればあるほどに、それが失われる瞬間が恐ろしく。

そんな瞬間が来るかも知れない未来が恐ろしく。

だから私は幸せであればあるほどに、そんな未来を否定したくて。

今の幸せの存在を確かめたくて。

そしてそれでも消す事の出来ぬ不安を終わらせたくて。

私は幸せであればあるほどに、自分が「不幸」だと嘘を吐いてしまいます。

そうすれば私は未だ訪れぬ「不幸」への恐怖から逃れられ……。

そうやって私は、結局いつも、自らの手で幸せを失ってしまいます。